

商人のまち長浜 大通寺のお膝元

(ながはま御坊表参道商店街振興組合)

訪問日：平成 27 年 10 月 29 日

担当 AD：伊津田 崇

羽柴秀吉がつくりあげた商人のまち

大阪から約 120 km、名古屋から約 90 km に位置する滋賀県長浜市は、日本最大面積を誇る琵琶湖の北側に面しています。中心地は羽柴秀吉が築城した長浜城の城下町として栄え、そして秀吉が「楽市楽座」（商業の規制緩和）を設けたことから商業都市として発展してきました。中心市街地には現在でも城下町の面影が残っており、その中でもとりわけ大



きな存在感を放つのが東本願寺の別院「大通寺」で、通称「長浜御坊」です。この大通寺の門前町として、「ながはま御坊表参道商店街」があります。

街の衰退と再起

商業都市として発展してきた長浜市ですが、昭和 50 年代に郊外が開発されることにより、公共施設等が移転された。さらに昭和 60 年代入り、大型商業集積が進出しはじめたことから中心市街地には人通りも少なくなり、店舗も閉まっていく事態になりました。そこで危機感をもった商業者が中心となり、地域住民や市と連携し街の再起にむけ活動を始めました。市民の寄付による長浜城の再建に始まり、公的な支援策を活用し官民連携で実施した店舗のリニューアル、国の重要無形民俗文化財である「曳山」などの文化を継承する取組みや各商店街によるイベントなどが今日まで行われてきました。こうした活動が実を結び、次第に中心市街地には活気が戻ってきました。

ながはま御坊表参道商店街のにぎわいづくり



長浜市の中心市街地には5つの商店街振興組合があります。中でもながはま御坊表参道商店街は、街の低迷期において積極的に事業を展開し、街の賑わいづくりに貢献してきました。

昭和62年には官民一体となり、来街者のための駐車場や観光物産センターを整備し、平成2年には大通寺が通りからよく

見えるようアーケードを全蓋型から雁木式に変えるなど、ハード事業を行いました。また平行して、ふるさとまつり、夏まつり、アートイベント、イルミネーションなど、年間を通じて様々なソフト事業を展開してきました。中でも平成元年にスタートし、現在も毎年2月から4月にかけて行っているのが「馬酔木（あせび）展」です。琵琶湖付近では、長年盆梅展が開催され続け、冬場でも集客力が大きいのに対し、街なかでは冬場にイベントがありませんでした。そこで開催することにしたのが、盆梅と同じように盆栽展示する「馬酔木」です。盆梅展とならび、長浜市の冬の風物詩となり、多くの来街者を呼び込んでいます。開催時には商店街組合員と市役所・商工会議所等30名がかりで、大きな盆栽の搬出入を行います。

にぎわいの原動力は、リーダー自身

このような多くの事業についてリーダーシップを執るのが、小倉勝彦理事長です。商店街の役員になってから40年ほど経ちますが、今でも頻繁に長浜まちづくり株式会社や市役所など関係者と話して関係を築いています。それが事業のために必要な許可や支援策の情報を得ることや、商店街だけではできない部分を助けてもらうことに繋がります。工夫と交渉で、次々と賑わいづくりを仕掛けているのです。時には小倉理事長自ら駐車場の管理・運営をするなど、商店街のために活動してきました。「組合員には、『まずは自分の店を頑張してほしい』と伝えてきたので、自分も同じように頑張っている。」と小倉理事長は語ります。



現在商店街には28店舗ありますが、そのほかに空き店舗がいくつかあります。小倉理事長自ら空き店舗のオーナーと相談し、家賃交渉をしてテナントを誘致することも

あれば、小倉理事長のもとに相談に来た出店希望者と、空き店舗オーナーの相性をみて引き合わせることもします。街のシンボルである大通寺の参道という場所に、どのような店舗があるとお客さんが喜ぶか考えて空き店舗対策にあたっています。

各個店の経営は決して楽ではなく、皆厳しい状況に置かれています。商店街組織としても世代交代や入れ替わりを経て、昔のような強固な団結は無くなりました。しかし、小倉理事長としては、全員が少しでも商店街に関わることができるようにとの思いから、朝に会議をするなど皆が参加できる環境を作っています。いずれ商店街を率いてくれる次世代が現れてくれることを期待して、毎日奮闘しています。

商店街データ

商店街名：ながはま御坊表参道商店街振興組合

所在地：滋賀県長浜市元浜町 18-15

担当者：理事長 小倉 勝彦

連絡先：0749-62-0372